科目ナンバリング	U-LAS02 10002 LJ35						
授業科目名<英訳>	芸術学II Theory of Arts II			担当者所属職名・氏名	非常勤講師 松本　理沙		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	芸術・文学・言語(基礎)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	月5	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

1990年代から今日に至るまで、社会問題や政治との関係を強め、人々を作品のプロセスに参加させる社会関与型アートが世界各地で展開されてきました。こうした社会関与型アートは、「公共空間」、「観客」、「地域」、「関係性」、「参加」、「対話」といった様々な観点から論じられています。この授業は、こうした社会関与型アートの理論について概観し、その基本的な知識を身につけるとともに、その理論を作品分析に応用できる柔軟な思考力を養うことを目的とします。

[到達目標]

社会関与型アートの理論に関する知識と幅広い視野を身につけ、それらを用いて作品を分析できる柔軟な思考力を修得することを目標とします。

[授業計画と内容]

1　イントロダクション
社会関与型アートの特徴やこうした実践が流行する歴史的・社会的背景について学びます。それによって、社会関与型アートについて学ぶ意義を理解します。

2　アートと公共空間（1）
美術史家ロザリン・ドイチェの理論を学ぶことで、アートには公共空間が抱える問題を可視化する効果があることを理解します。

3　アートと公共空間（2）
ロザリン・ドイチェの理論を用いて、公共空間に置かれたアートを分析する方法を学びます。

4　アートと観客（1）
アーティスト兼批評家スザンヌ・レイシーの理論を学び、アートに参加する観客がもたらす効果について考えます。

5　アートと観客（2）
スザンヌ・レイシーの理論を用いて、アートと観客の関係を分析する方法を学びます。

6　地域密着型アート（1）
批評家ハル・フォスターが執筆した論考を読み解き、アーティストが地域と関係性を構築する際に生じる問題について考えます。

7　地域密着型アート（2）
ハル・フォスターの理論をもとに、地域密着型アートを分析する方法を学びます。

8　リレーショナル・アート（1）
キュレーターのニコラ・ブリオーによる書籍を読み解き、ブリオーが評価した作品の特徴を理解します。

芸術学II(2)へ続く↓↓↓

芸術学II(2)

9　リレーショナル・アート（2）
ニコラ・ブリオーに向けられた批判を参照することで、ブリオーが評価したリレーショナル・アートに内在する問題を理解します。

10　参加型アート（1）
美術史家クレア・ビショップの理論を学ぶことで、作品のプロセスにアーティストではない人々を関与させることの意義や問題を理解します。

11　参加型アート（2）
クレア・ビショップの理論をもとに、今日制作されている参加型アートの分析を行います。

12　対話型アート（1）
美術史家グラント・ケスターの理論をもとに、対話を主題とするアートがどのような効果をもたらすのかについて学びます。

13　対話型アート（2）
グラント・ケスターの理論をもとに、アートに組み込まれた対話を分析する方法を学びます。

14　複合的な作品分析
これまで学んだ理論を複合的に用いて、作品の優れた点と批判すべき点を読み解く方法を学びます。

《期末試験》

15　フィードバック（まとめ）
この授業で学んだ内容を振り返りながら、社会関与型アートが美術史に与えた影響や現在のアートシーンの状況を改めて考察します。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

コメントカード（40%）および試験（60%）。

[教科書]

授業内で適宜プリントを配布。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業ノートや配布物を読み直して授業内容を自分の中で整理すること。授業中に紹介した参考文献を読むこと。

[その他（オフィスアワー等）]

芸術学II(3)へ続く↓↓↓

芸術学II(3)

[主要授業科目（学部・学科名）]

総合人間学部